

令和5年8月 市長定例記者会見

令和5年8月2日(水)

午後1時30分

【秘書広報課主幹】 では、ただいまから定例記者会見を開始させていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 皆さん、こんにちは。

大分暑くなってきておりますが、神楽1丁目の商店街の神楽広場で7月28日金曜日から7月30日の3日間、日替わりでイベントが開催されています。敦賀提灯酒場が金曜日の夜、それから咖喱（カレー）と夏の日が土曜日のお昼、最後、日曜日の夜に肉とビールと銘打たれて企画されとてもにぎわっておりました。この中でも訪れた方もいらっしゃるかと思います。週末、市内各地で納涼祭、それから夏祭りも開催されています。

先週の土曜日だけで10か所以上開催されているところを回らせてもらったのですが、地区によっては、コロナ禍とか、あと天候のこともあって何年ぶりの開催で、場所によっては6年ぶりの開催となる地区もありました。そういう久しぶりの催しに多くの方が出てこられて、参加している皆さんのすごくうれしそうなお様子が印象的な週末でした。

このように、コロナの扱いもまだ気をつけなければいけないんですが、5類になって以来、イベントが続々と開催されているというのは、皆さんも取材されてご承知のとおりです。こうやって市民生活がだんだん元に戻ってきて、それから市民主体の活動も復活してきて、より盛んになるように期待しているというところです。今日の記者会見でも発表させていただきますけれども、特に敦賀は、これから夏から秋にかけてイベントもありますし、その先々を見ていくと新幹線の開業に向けてということで、そういうことを活発化させていきたいと思っていますので、今後ご期待いただきたいし、私たちが期待しているというところです。

一方で、厳しい暑さが続いているということで、イベントもそうなんですが、熱中症等も十分気をつけながら、コロナにも気をつけながら、敦賀の夏を皆さんに楽しんでいただきたいなと思っています。

冒頭の挨拶としては以上です。

【秘書広報課主幹】 では続きまして、事業発表に移ります。

なお、進行につきましては、1項目ごとに発表及び質疑応答とさせていただきます。また、事業の詳細につきましては、後ほど各担当部署へご質問いただく時間を設けておりま

すので、よろしく願いいたします。

それではまず1つ目の項目、帆船日本丸寄港関連事業についてお願いいたします。

【市長】 帆船日本丸寄港の関連事業についてです。

今年の夏、24年ぶりに帆船日本丸が敦賀港に寄港いたします。この機会に大勢の方に日本丸を見ていただき、それから敦賀港に来ていただいて港に親しんでいただけるように、日本丸のデッキを見学できる一般公開を実施します。

この一般公開のほかにも寄港時の歓迎式も実施しますし、また、海洋少年団を対象にしたシップスクールも実施する予定になっています。それから、日本丸が停泊中は、日没から夜22時まで船のライトアップをしまして、敦賀港の夜を彩りたいというふうに思っています。

特に寄港初日が8月16日です。この日はご承知のように花火大会が開催される日でもありますので、花火を見に来ていただける方にこの日本丸のライトアップも楽しんでいただくということで、写真を撮ったりするのはいい風景になるのかなということで、今から楽しみにしています。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問をお受けいたします。

【記者】 16日の歓迎式典であったり、あと一般公開は事前の申込みは何か必要になるのでしょうか。

【市長】 事前の申込みは必要はないです。当日受付にしている、例えば一般公開で言いますと、当日受付で整理券を配る、そういうやり方になっています。また詳細は後ほど担当部のほうに聞いていただけるとありがたいんですけども、設定としてはそういう形ですね。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社の方よりお願いします。

【記者】 24年ぶりということですが、市長は前回見られたのでしょうかということと、あと、先ほどの事業発表の話の中でいろんな期待感とかもお話しされていましたが、改めまして市長のコメントというか期待感を教えてください。

【市長】 24年前は見ていないです。子どもの頃に、多分初代の海王丸が来たのを見たことがあるような気がします、すごく帆船は見てカッコいいものなので、今回の日本丸はすごく楽しみにしています。

この日本丸というのは、港敦賀を象徴する港に入ってきていただいて、しかもすごく帆

船はカッコいい。これを市民の方にもぜひ見に来ていただいて、正直、一般公開といいますが整理券ということで限りはあるんですけども、その姿を見に来ていただきたいなと思っていますし、それによって、やっぱり港ある敦賀はいいなと思っていただけたらと思っています。

加えて、日程的に花火と一緒にになると、ライトアップされた日本丸越しに花火ってどうなるんだろうなと思って、いろんなSNSでアップされると思うのですが、今から皆さんがアップされる写真が楽しみです。

【秘書広報課主幹】 それでは続きまして2つ目の項目、令和5年度敦賀まつりの開催についてお願いいたします。

【市長】 令和5年度敦賀まつりの開催についてです。

敦賀まつり、4年ぶりの開催となります。日程は9月2日の土曜日から4日までの3日間、主催は敦賀まつり振興協議会で開催いたします。

今年度の敦賀まつりは、来年春に控える北陸新幹線敦賀開業の200日前イベントとして、通常の祭り行事に加えて、北陸新幹線の沿線市町等で活躍している戦国武将隊、戦国武将の格好をしているようなイベントに参加して盛り上げていただいている方々がいらっしゃいますけれども、沿線市町で活躍されている戦国武将隊のパレードや、それから沿線市町等の観光物産を集めた観光物産展、それからミニ新幹線の無料乗車体験などを企画しています。

それから、今回の敦賀まつりが、先ほど4年ぶりという話もしましたが、国道8号線が2車線化されてから、2車線化の整備の後に初めての祭りということになります。敦賀まつり、こうやって久しぶりなのですが、祭りを開催することによって伝統行事を次の世代につなげていくということとともに、新しいところ言えば、そうやって北陸新幹線敦賀開業に向けて市内外の多くの方々に敦賀市、それから敦賀まつりの魅力を発信していきたいと思っています。

各行事の詳細については事務局でまだ調整中のところもありますので、祭りの前になりましたら改めてプレスリリースをしたいと思っています。

敦賀市民にとっては小さいときからなじみの祭りということで、今年の夏、暑いですがけれども、秋の訪れを告げる市民総参加の祭りとして多くの市民の方にご参加いただけるように準備を万全に整えていきたいと思っています。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいまの項目につきまして質問をお受けいたします。

【記者】 4年ぶりの祭りということで、コロナで3年ほどできていなかったと思うんですけども、祭りのイベントとか、あと規模感含めてコロナ前に戻るといふ形になるのかというところの確認と、4年ぶりということも踏まえて、もう一度ですけれども、4年ぶりの祭りに向けて市民の方に呼びかけたいことを聞かせていただければと思います。

【市長】 規模感とか開催のやり方みたいな話なんですけれども、コロナ前と同じような通常開催を予定しています。すなわち、縮小とかそういうことはしないということです。ただ、当然まだコロナ感染症予防ということは考えていきたいので、体調が優れない方は来場を控えてくださいとか、あるいは会場内に手指の消毒用の消毒液は設置する、そういうことは今のところ考えています。

春先からいろんなイベントに参加しています。最近だったら夏祭りとかに参加していて、本当に皆さん明るい笑顔で参加されているというのを見ているので、今回の敦賀まつりについてもすごく市民の方にも期待されているのだろうなと思います。いろんな方と話していても、今年花火やるよね、祭りやるよねということはかなり早い時期から確認される。やってほしいとよく言われますので、本当に皆さんの期待に応えられるような祭りになったらいいな、祭りにしていきたいなと思っています。

【秘書広報課主幹】 それでは続きまして3つ目の項目、北陸新幹線試験車両歓迎セレモニーの開催についてお願いいたします。

【市長】 北陸新幹線試験車両歓迎セレモニーの開催についてです。

令和6年春の北陸新幹線敦賀開業に向けまして、9月23日から北陸新幹線金沢―敦賀間において実施される走行試験に合わせて北陸新幹線W7系が入ってくるということに合わせての歓迎セレモニーを実施します。

北陸新幹線試験車両歓迎セレモニーについては、令和5年10月1日に開催予定で、当日は参加の皆様とともに手旗等による歓迎を行いたいと考えています。参加者については、敦賀市民をはじめ嶺南5市町に住む方を対象として500名程度で実施します。申込みは8月7日の月曜日から開始しますので、多くの方々に応募していただきたいと思っています。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいまの項目につきまして質問をお受けいたします。

【記者】 基本的なことでは申し訳ないですけれども、23日から走行試験が始まって車両歓迎セレモニーが10月1日というのは、敦賀に来るのがこの日ということでしょうか。

【市長】 敦賀には23日から来ます。最初は試験車両、E a s t - i（イーストアイ）

という試験のための車両が初めに入ってきます。この10月1日はW7という実際の新幹線が入ってくるので、この日に合わせて歓迎セレモニーをすることになります。

【記者】 嶺南5市町というのは嶺南地域全部ということですか？

【市長】 敦賀市を1と数えて、合計6市町ということになります。

【記者】 歓迎イベントの内容についてですが、手旗による歓迎等で一つ例を挙げていただいたと思いますが、ほかに現時点で決まっているような出し物であったり、何かありましたらよろしくをお願いします。

【市長】 まだ段階ですが、試験車両を運転してきた運転手に花束を贈呈させていただいたり、くす玉を割ったりとか、あるいは試験車両をバックにして写真撮影をするとか、あとはこれからの話になりますが、嶺南で歓迎するという意味で嶺南の6市町のゆるキャラに集まってもらうとか、そういうようなことを今、案段階として考えています。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社の方よりお願いいたします。

【記者】 改めまして、新幹線は最初にみんなが敦賀駅で見るという機会になると思いますので、呼びかけコメントをお願いします。

【市長】 駅舎や車両基地の見学イベントは本当に多くの方に申込みをしていただいて、定員オーバーで抽選して来ていただいているということがあって、だんだん関心が高まっているなど感じています。そこに今、施設だけではなくて実際に車両が入ってくるということで、いよいよ200日切るんだと皆さんに実感していただけるイベントになるかと思っています。

これを機会にそのようなことを実感していただきたいですし、そうすることによって「もうすぐ新幹線来る、お客さん来る、自分たちも盛り上げていかなければいけない。おもてなしは何したらいいかな」と、考えていただけるきっかけにもなってもらったと思っています。そういう意味でこのイベントも盛り上げていきたいと思っています。

【秘書広報課主幹】 フリーの質問対応に移りたいと思います。では初めに、幹事社の方からお願いいたします。

【記者】 原子力に関して、今日のニュースで中国電力が上関町に中間貯蔵施設の打診をというところで関西電力も共同で関わるというようなニュースがあったと思いますが、全原協の会長として、このニュースへの受け止めといいますか、こういった形で受け止めているかというところを一言いただければと思います。

【市長】 中国電力のニュースというのは今朝の新聞で見まして、関電のニュースは、昼

のニュースを見られなかったので、内容もまだあまり把握できていなく、そういう報道があったということは承知しています。

ただ、具体的に今どういう内容になっているか、どのような報告がこれからなされていくのかということも承知しておらず、まだ分かりませんので、今この段階ではこれからの推移を見守りたいと思っています。

【秘書広報課主幹】 では次に、各社の方、お願いいたします。

【記者】 幹事社さんの質問に関連して中間貯蔵に関する質問をさせていただきます。中間貯蔵に関しては、市長就任以前からとおっしゃっていた乾式貯蔵の位置づけをという話と、非常に密接に関わっている問題だと思いたいますが、この点について、以前からおっしゃっていた乾式貯蔵に関する国の姿勢や位置づけはどうお考えでしょうか。

あと、中間貯蔵の話は、使用済燃料を各社が共通の課題としている中で大きな課題だとは思いますが、一方で、これは本質的な問題かというのと、あまり本質的な問題ではないというのが実態だと思います。やはりバックエンドの一部と見るのが自然だと思うのですが、この問題に関して、国の関与や役割に関して、これも全原協の会長さんとしてコメントをいただけるでしょうか。

【市長】 まとめて答える形になるかもしれませんが、乾式の話と、バックエンド全体、それはもちろん最終処分も含めてということだと思いますが、全原協の会長に就任以来、全原協の中の挨拶や役所の方、国の方との話の中でも再三申し上げていますが、バックエンドをしっかりしていただかないといけないということを強調しています。

その中で、その文脈の中でいつも申し上げているのがやはりバックエンドで、中間貯蔵の中でも乾式をどのように定義づけあるいは位置づけていくのか、明確になっていないのではないかと考えています。また、最終処分場の選定ということについても、しっかりやっていかなければいけない中で、まさに国の責務ということ国の方もしっかり明確に言うようになりましたので、その責務を果たしていただきたいと思っています。

これは、一立地の立場からも、全原協の会長としてもこの発言をずっとしてきたつもりですので、今後もいろんな国とのコミュニケーションの場があると思いますが、そこではそのようなことを申し上げていきたいと思っています。

【記者】 中間貯蔵の問題に関しては、あくまで事業者の取り組みだというのが国のスタンスであり、交付金などは出したりしていますが、基本的には事業者の取組で進められていると思います。これまでになかなかうまくいったケースはあまりない中で、中間貯蔵の

難しいところは、本当に出ていくのかという懸念をどうしても持たれてしまうというところなんです。これは一事業者だけの取組でうまくいくのだろうかというのは、非常にやっぱりはたから見て疑問に思うところがあります。その辺の中間貯蔵に関しての国の関わり方は現状の事業者任せでいいのかどうか、ご見解はありますか。

【市長】 基本的にはもちろん事業者がというところは、今おっしゃられたとおり変わらないと思うんです。しかし、今回の件でもいろんな方が発言されているように、先程申し上げたとおり、国の責務で進めていくことについて、関与の仕方は国においても考えていただきたいと思います。また、先ほど中間貯蔵が結局そこにずっと置かれるのではないかという話は、結局最終処分場の話なんです。最終処分場については、やはり国がある意味積極的な関与をするということで、スタンスとしても変わったという進め方になっていきますので、そこはしっかりやっていただきたいと思います。

おっしゃるとおり、中間貯蔵の問題というものの後ろにあるのは最終処分場の問題だと思いますので、最終処分場のことはしっかりやっていただきたいと思っています。

【記者】 あと、これも繰り返しの答えになってしまうかもしれませんが、先ほど幹事社の質問にもありましたけれども、使用済燃料の問題が業界全体の課題になりつつある中で一つステップが踏まれたことに関しての受け止めという点ではどうでしょうか。

【市長】 そうですね。そこまでニュースを把握できていないので、中間貯蔵について約束として場所を見つけるという話だったのでそのようになればと思いますが、今の段階で、場所が見つかったのかどうかはまだ分かりませんので、これからの報道や発表をしっかりと確認していきたいと思っています。

【記者】 先ほどの話に関連しまして、先月の櫻本副知事との会談で市長は200トン一度だけ搬出することをもって全ての回答になっているわけではないということと、あと200トン以外の部分についても事業者のみならず国の責任ある対応が必要だということをおっしゃっています。これは、今おっしゃったようなバックエンドの問題のことをおっしゃっているということですか。

【市長】 そうです。

【記者】 特にそれ以外のことがあるのでしょうか、バックエンド以外で。

【市長】 あのかきは200トンを出すというところまでは決まっていたんですが、おっしゃるとおり全部じゃない。それをどうするのかという話になったときに、それはもちろん事業者が見つけられたらいいのですが、今、原子力政策を推進するという中で国の責務と

してというところがありますので、そこはやはり国としての責任ある対応というのを事業者だけではなくやっていくことは必要だと思っています。

【記者】 先ほどの発言の中で1点だけ教えてください。

バックエンドの課題の中で乾式の位置づけが明確でないというのは、これはどういう意味ですか。

【市長】 中間貯蔵のやり方の中で、乾式というやり方でサイト内に置いておくよみたいな話はあると思うんですけども、それをもって中間貯蔵という、本当にそういう定義になっているのかなというのがよく分からないんです。その中間貯蔵ということで想定されているものの中に、そういうサイトに置いている乾式貯蔵というのが含まれているのかどうかというのがよく分からないと思っており、例えば今回のケースとは言いませぬけれども、そういうものをもってして中間貯蔵の場所を見つけましたとなったときに、それを「そうですね、中間貯蔵ですね」と言っているのかどうかというのが、定義上まだよく分かってない。そこまで明確になっているのかなというのはあったので、その位置づけを中間貯蔵と呼ぶのかどうかということも含めて、今後そういう形態もあり得るのであるとすれば何かそういう整理をしたほうがいいのではないかと思います。そういう形態が駄目だと言っているわけじゃなくて、そういう形でしばらくの間保管するということがあるのであれば、位置づけははっきりしたほうがいいのではないかと。

【記者】

ふるさと納税の話です。昨日も全国で10位というお話が出てました。上のほうの自治体は大体固まってきているというのが、そんなニュースでもありましたけれども、この全国10番目というところに対して受け止めのご感想をお願いします。

【市長】 ふるさと納税という形でご寄附をいただいていることには大変感謝をしているということです。何番になろうとかそういう意味でやっているわけではなく、本当にもとのふるさと納税の趣旨に沿った形で地域を振興していくということで、敦賀市としては一生懸命取り組んでいる。その結果が今のよう順位であり金額になったのかなと思っています。

そうやって多くのご寄附をいただいているところで、寄附していただいた方の気持ちを大事にしながら、どういうふうに大切に使うのかということは考えていかなければいけないなと思っています。しっかりと考えて使わないと、そういうことに使ってくれる市だったら、返礼品もすばらしいしもっと寄附しようとなってくるかもしれませんし、変

な使い方をしたら、どんなに返礼品がよくてもそういうところには寄附したくないと思いますので、使うほうもしっかりしていきたいと思っています。

【秘書広報課主幹】 それでは、本日、一般事業発表はございませんので、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。

ありがとうございました。

午後2時2分 終了